

## 長崎県小離島における HCV キャリアの micro-elimination を目指した取り組み

研究分担者 山崎一美 国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター・臨床疫学研究室長

### 研究要旨

長崎県小離島（人口 2,291 人）において、全住民を対象に C 型肝炎ウイルス抗体を用いたスクリーニングを行った。1990 年から開始し受診者は実人数で 5,632 人に達しほぼ全住民のスクリーニングが行われた。このうち 80 名の C 型肝炎罹患患者を確認し、医療機関へ受領勧奨し、全例受診した。2021 年までの最終転帰について検討した。SVR に至ることなく死亡した症例は 53 例 (86.9%)、その内訳は、肝疾患関連死は 18 例 (34.0%)、他病死 35 例 (66.0%) であった。残りの 9 例は抗ウイルス療法で SVR 達成した。最終治療者の治療終了日は 2020 年 6 月に C 型肝炎ウイルスキャリア患者は撲滅したと思われる。

### 研究協力者

小値賀町国民保険診療所・所長	田中敏己
長崎県上五島病院・院長	神田 聡
長崎県上五島病院・名誉院長	白濱 敏
上五島病院・検査室技師長	平瀬和廣

きた。IFN-free 治療がはじまった 2015 年以降は、当該地域の HCV の撲滅を目指して取り組んできた。本研究では、その成果について検討した。

### B. 研究方法

長崎県の離島である小値賀島住民を対象とした。対象地域の人口は国勢調査において 1990 年 4,651 人、2020 年 2,291 人であった。地域健診および職域健診で 1990 年から HCV 抗体検査を毎年行った。また島内の唯一の医療機関・小値賀診療所においても初診患者および再診患者のうち HCV 抗体未検査患者を対象にスクリーニングを行った。2000 年までの受診者は 5,632 人であった。このうち HCV 抗体陽性者に受療勧奨を行い、医療機関で HCV RNA (PCR 法) を全例確認した。

### C. 研究結果

(1) 2020 年までの HCV RNA 陽性者は 80 名であった。陽性率は 1990 年の人口 4,651 人に対して 1.7% であった。

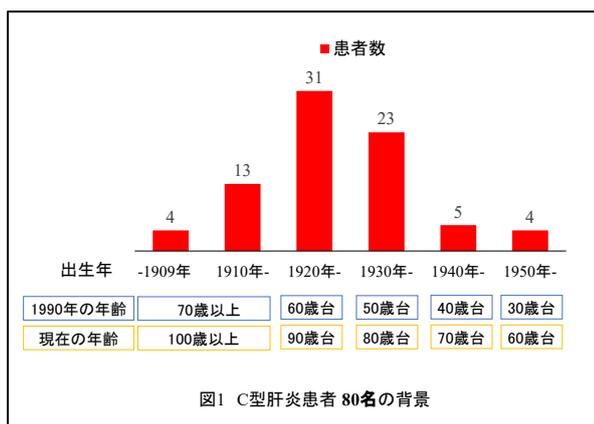
(2) 80 名中、男性 41 名 (51.3%)。出生年別の内訳は、1910 年以前 4 名 (5.0%)、1910 年台 13 名 (16.3%)、1920 年台 31 名 (38.8%)、1930 年台 23 名 (28.8%)、1940 年台 5 名 (6.3%)、1950 年台 4 名 (5.0%) と、1920 年-30 年台で 67.5% を占めていた (図 1)。

### A. 研究目的

C 型肝炎ウイルス (HCV) 感染症は、治療薬の進歩により 100% に近いウイルス駆除が見込めるようになった。Direct Acting Antiviral (DAA) は経口内服薬であり、インターフェロン (IFN) ・フリーの治療法である。IFN を使用しないことから高齢者における副作用の影響が少なく、導入における障害が少ないことから、より多くの患者への治療が可能となった。これにより HCV 罹患患者の急速な減少が期待され、肝癌死亡が抑止されることが期待できる。

WHO は 2030 年までに HCV の撲滅することを目標にそのロードマップを示した。日本は、目標達成の可能性が高い国の一つと予測されている (Razavi H et al. Liver international 2020)。

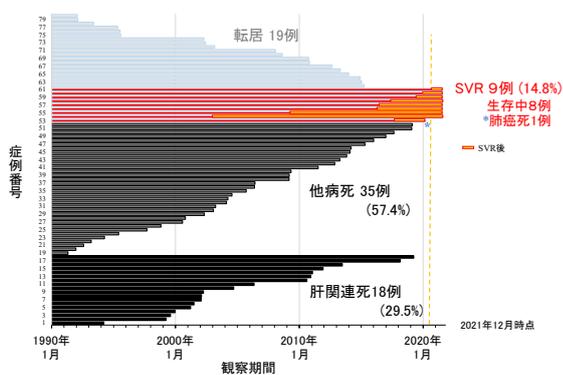
我々は長崎県の離島において 1990 年から地域及び職域健診および医療機関で HCV 抗体スクリーニングを開始し、多くの C 型肝炎患者を拾い上げ長期にわたり観察、診療、治療導入を行って



(3) 80例中、IFN治療が導入された症例は4例、IFN-free治療は7例であった。Sustained viral responder (SVR) はそれぞれ2例、7例、計9例であった。

(4) 島外へ転居して転帰不明である19例を除いた61例について、2021年12月までの転帰について検討した。SVRに至ることなく死亡した症例は53例(86.9%)、その内訳は、肝疾患関連死は18例(34.0%)、他病死35例(66.0%)であった。抗ウイルス療法でSVR達成したのは9例であった(うち1例はSVR後に肺癌にて死亡)

(図2)。最終治療者の治療終了日は2020年6月だった。



(5) 令和3年の各健診、医療機関でのHCV抗体スクリーニング検査において新規感染者は確認されなかった。

## D. 考察

HCV抗体スクリーニングを開始した1990年の当該地区人口4,651人に対して、5,634人が肝炎ウイルス検査を受診した。受診者が人口より多い理由は、1990年以降に当該地区への転入者がいるためである。よって当該地域の住民のほとんどが受診したと想定される。

当該地区でIFNフリー治療が導入可能となった2015~16年は15名のC型肝炎患者がいたが、2例は進行性肝癌、5例は重篤な基礎疾患があったため、抗ウイルス療法を導入しなかった。治療導入に問題がなかった9例にIFNフリー治療を導入し、全例SVRを達成した。最終治療者の治療終了日である2020年6月は当該地区においてC型肝炎が撲滅した日と考えられた。

## E. 結論

長崎県小離島のC型肝炎ウイルスは撲滅したと考えられる。

## F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

今回の研究内容について特になし